

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市西多賀児童館
2	指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3	指定期間	平成30年4月1日から令和5年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》17,977人（前年度比 96,7%） 平成30年度 18,585人 平成29年度 20,168人 平成28年度 19,548人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》 （ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 28,951千円 （ 44.676千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （ 0千円） <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 0千円 （ 0千円） ・ その他収入 0千円 （ 0千円）
6	利用者の声	<p>《実施状況》 利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。</p>

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシートで確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、施設内外の日常点検及び定期点検、マニュアル等の整備、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、改修工事後子どもの遊ぶ空間の広がりもあり、落ち着いて遊ぶことができている。4年生以上をリーダーとして役割を持たせることにより、自主性や主体性を育ててきている。積極的な行動が多く見られるようになり、自分たちで考えた行事に意欲を持って取り組むほか、「けん玉クラブ」の自主運営や「子どもスタッフ」の参加なども活発になっている。 中高生と小学生の交流の場として、高校チアリーディング部やジュニアリーダーとの活動の機会を提供している。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》

地域の中の児童館を意識しながら、遊びの輪、交流の場を増やす取り組みを展開してきました。乳幼児向け行事を充実させ、多くの体験的活動を増やしたことは乳幼児の成長を促すとともに少しでも子育て支援につなげたいという思いからです。地域連携推進事業として5年前から実施している「ハロウィンパレード」では、地元商店会の店舗と連携して企画運営を進めてきており、子ども達が各商店のみなさんと交流を深め地域の様子を知る機会になっていました。今年度は、残念ながら台風の影響で実施できませんでしたが、各商店から次年度は必ずという声もあり、着実に地域とのつながりを実感しています。当館には、地域にある高校のチアリーディング部との連携から生まれたクラブ活動「にしたがチアーズ」があります。地域での継続した発表の機会は、子供たちにとって大きな自信につながっています。

また、地域のSBL(仙台防災リーダー)の指導のもと減災・防災の事業にも取り組みました。防災紙芝居の読み聞かせや非常時のランタン作りをすることで防災の意識が高められたことは大きな収穫であり、町内会との共催で行った七夕飾り作りや高齢者との交流会も貴重な経験でした。さらに「児童館まつり」では、子育て支援クラブやボランティアの民生委員児童委員、中高生のみなさんと連携を図りながらまつりを成功させ、今後の児童館運営につながる交流も深めることができました。

児童クラブ事業で大切にしてきたことは、子供たちの自主・自立の心を育むということです。児童館まつりでの「こどもスタッフ」の育成や自主的に立ち上げた「けん玉クラブ」の活動、行事での司会進行など高学年がリーダーシップを発揮できる場を意識的に設定してきました。また、遊びのルールを子供たちに考えさせたり、相談させたりすることで児童館活動にも主体的に取り組めるようになっていきます。

《施設設置者（仙台市）による評価》

小学生行事の「西多賀今昔かるた大会」は、西多賀市民センターと西多賀検定委員会が児童館と共催して取り組んでおり、西多賀検定委員会が地域の歴史や自然を織り込んで作成した大型かるたを取り合うもので、遊びながら地域を知る行事となっていた。他にも町内会の福祉サークルとの「七夕作り」や市民センターと共催している「天沼自然観察探検」など、自然を活かした行事を取り組み、高齢者の方や地域と交流を図りながら連携して運営に取り組んでいる。

地域のSBL(仙台防災リーダー)の指導を受けて取り組んだ活動は、子どもたちに地域の防災減災の意識を持たせ、学年に応じて非常時の「ランタン作り」や、「防災紙芝居の読み聞かせ」など防災意識を高める意義深い取り組みになっている。

中高生との交流では、「ジュニアリーダーとあそぼう」を年2回の開催したり、小学生のクラブ「にしたがチアーズ」が地域の高校のチアリーディング部と交流するなど中高生と関わる機会を提供しており、子ども達の健全育成を支援している。

子育て家庭支援では、幼児クラブの減少から親子の参加しやすさを考慮し、ホームページをこまめにリニューアルするなど広報を工夫し、自由来館の行事に力を入れて取り組んできている。「ママとあそぼう」の取り組みでは、親子遊びとママのリフレッシュをねらいに工作や手遊びを取り入れるなど内容を工夫し、来館者が増えている。地域のニーズを見ながら内容を見直してきたことで、成果が出ていると思われる。

総合評価

§

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課